

第4学年 算数科学習指導案

1 単元名

「倍の見方」

2 単元の目標

- 簡単な場合についての割合を活用して、ある二つの数量の関係と別の二つ数量の関係とを比べることができる。(知識・技能)
- 日常の事象における数量の関係に着目し、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係について割合を用いて考え、説明している。(思考・判断・表現)
- 簡単な場合について、割合を用いて比べたことを振り返り、よりよいものを求めて粘り強く考えたり、学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。(主体的に取り組む態度)

3 単元構成の意図

本学級の児童は算数科の学習に意欲的であり、授業中に挙手して自分から話そうとする姿が多く見られる。しかし、思いつきで根拠なく話したり、じっくりと考えず答えを出したりする。さらに、相手の反応を見ながら話したり、筋道を立てて分かりやすく説明したりしようとする児童は少ない。また、学習したことが定着するまでに時間がかかる。

本単元では、「基準量を1とみたとき、比較量が○にあたる」という見方を学習する。その後、「簡単な場合についての割合」を学習する。「基準量の何倍」という見方を用いて、ある二つの数量の関係と、別の二つの数量の関係を比べる。基準量が違うときには、基準量を1とみて、倍を使って比べられることを考察する。

指導にあっては、「割合」の考え方のよさを味わうことができるようにしたい。

まず、「基準量を1とみたとき、比較量が○にあたる」という見方を使って課題を解いていく。児童が課題に取り組みやすすめるために、関心が高い動物の親子の大きさ比べをするという活動を取り入れる。どのように比べればよいのかを、テープ図や数直線を使って説明できるようにしたい。

その後、「簡単な場合についての割合」について考える。二つの包帯の伸び方を比べる活動を通して、「差」ではなく「倍」を使って比べることがあることを知るとともに、そのよさにも気付かせていきたい。単元の最後に簡単な割合を使った様々な場面の問題を解く時間を設けることで確実に問題を解くことができるようにさせるとともに、生活の中で割合を使っている場面が多くあることに気付かせ、生活に生かしていこうとする態度を身に付けさせたい。どの時間にも友達に説明する時間を取り入れ、相手を意識しながら根拠をもって説明したり、分からないところは理由を聞いたりしながら学び合うことで、説明する力を身に付けさせたい。

4 単元の計画（総時数5時間）

時	場面	学習活動（夢中に学んでいる姿）	資質・能力
1	見通す 習得する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動物の親子の大きさ比べをすることで、関心を高める。 ・ クジラの親子の体長を比べる活動を通して、15mが3mの何倍かを求めるには、どんな計算をすればよいかを数直線を基に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除法を用いて何倍かを求めることができる。(知・理) ・ 割合について二つの数量に着目し、テープ図や数直線の図を用いて倍の意味をとらえ、説明できる。(思・判・表)
2	考える 対話する	<ul style="list-style-type: none"> ・ キリンの親子の身長を比べる活動を通して、180cmの3倍にあたる大きさを求めるには、どんな計算をすればよいかを数直線を基に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乗法を用いて比較量を求めることができる。(知・理) ・ テープ図や数直線の図を用いて数量の関係に着目してその意味をとらえ、説明できる。(思・判・表)
3	考える 対話する	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒョウの親子の体重を比べる活動を通して、数量の関係を数直線を基に考え、□を用いて乗法の式に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数量の関係を□を用いて乗法の式に表し、基準量を求めることができる。(知・理) ・ 二つの数量の関係に着目して、テープ図や数直線の図を用いて基準量を求め方を考え、説明できる。(思・判・表)
4 本時	考える 対話する	<ul style="list-style-type: none"> ・ どちらの包帯がよく伸びるのかを考える活動を通して、ある数量と数量の関係と別の数量と数量の関係を倍を使って比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 差で比べられない場合、割合に着目して比較する方法を考え、説明できる。(思・判・表)
5	習得する 振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「倍」で比べる場面の問題を解くことで、割合のよさを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 割合で比べる方法を生活に生かそうとする。(主)

単元を通して育成したい子どもの姿

「簡単な場合の割合」を用いて課題を解く中で、相手を意識しながら根拠をもって説明し、解決しようとする姿